鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信 No.84

Sinc 1994

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 84 号
発行　鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日　令和 2 年 8 月 17 日
編集　植嶋しのぶ

巻頭 コロナ禍

でも…
今だから 思うこと
今だから できること！

今回はそんな思いを特集してみました。

緊急事態宣言が出され、親子とも家の中に閉じこもることを余儀なくされていた頃…
強い信念で活動を続けたこととは・・・

～ こども食堂を開催して ～

鳥取県青少年育成アドバイザー会長
西浦　公子

2018 年 5 月から、「岩美こども食堂」を始めました。こども食堂と名前はついていますが、こどもだけのためにではなく、こどもが安心して育つには、親の関わりが少なからず影響しますので、親のためのこども食堂をしたい。との思いから始めました。

先日、家庭教育支援員の講座で、「すべての教育の元は家庭教育である」。だから、一番大切な家庭教育を充実させることが大切である。身近にサポートする人がいることで、親は安心してこどもに関わることができるし教育もできる。と教わりました。

実際、親が不安であればこどもに不安はうつります。グループの中に一人不機嫌な人がいると、それに引きずられてなんとなくギクシャクした雰囲気になったことはありませんか？　常に自分自身をノーマルまたは上機嫌であり続けることは、難しいことだと思います。喜・怒・哀・楽、人は感情の生き物です。自分は「怒っている」「不安に思っている」「心配だ」などのマイナス感情も、正直に向き合い発信することで自分自身の感情のコントロールができ落ち着いてきます。

このように親の家事や子育て・仕事が忙しくほっとする時間が持てない人のために、こども食堂は役に立つのではないかと思います。

「こども食堂だのに、親ですか？珍しいですね。」と言われました。

人からなんと思われても私は、親の自己肯定感が大切だと思っています。

緊急事態宣言が出され、学校が一斉にお休みになりました。そのとき、「岩美こども食堂」は閉鎖しない選択をしました。どこにも出かけることができない、窒息しそうな状態の親子に、つかの間の休息の場を提供したいとの思いからでした。岩美町からの「こどもの居場所作り」の相談を受け毎週の開催を決めました。もちろん、お手伝いくださる方々の快諾があったからできたことです。

手洗い・消毒・検温・場所の消毒などできることはしていますが、三密を避け、ソーシャルディスタンスをとりながら、マスクをして…は、ちょっと難しいのですが、それなりにやっています。

大人にとってもこどもにとっても、ホッとできる場である「岩美こども食堂」をこれからも続けていきたいと思っています。

ある日のメニュー
食材はすべて地元産です

～ 子どもたちとの関わりを大切に！ ～

松原　厚子

コロナという感染症のおかげで、今まで当たり前に出来ていたことが急にストップされてしまい、どうすれば良いのかと不安、それはいつまで…いう不安、マスクをして２ｍ以上離れてコミュニケーション？むずかしいかも…と思いましたが、動き出せる機会を待っていました。

６月中旬、図書館の読み聞かせを実施。読み手と聞き手を２ｍ以上空けて、手遊びをしたり絵本を読んだり…子どもの顔もおかあさんの顔も楽しそうでホットした空気がたまりません。だから、親子で聞いてもらう読み聞かせはやめられない！

次は、ながせキッズクラブ（放課後子ども教室）。６月はいつも芋植えです。屋外ならば大丈夫と実施しました。毎年のことなので子どもたちの手際もよく、ちょっと声をかけをすればすぐできます。集中が途切れると砂遊びが始まりますが、それも良し。声をかければまた、作業を始めます。異年齢の子どもたちが思い思いに動きながら苗を配り、植えて水やりまでやっています。楽しそうに生き生きと…。だから、これもやめられない！

その次は小学校のボランティア活動。親子作業ができなかったので、校庭の草が伸び放題でした。これは「ホエホエ隊（おやじの会）の新さん」の出番です。先生方や PTA 役員も一緒になって少し校庭もスッキリ！私は草取りの手伝いでしたが、久々にホエホエ隊メンバーの元気な顔が見られて嬉しく…だから、これもやめられない！

もう一つは、小学校のミシン授業のお手伝い。５人のメンバーで調整して２人ずつ手伝いに入っています。今回は６年生のナップザック作りでしたが、実にいろいろな SOS が発信されます。

心の中で、
「キミたち、
５年生でエプロン作ったよね、
その時も教えなかったっけ？」
と思いながらも、
説明して自分でやらせる、の繰り返し。

そうして四苦八苦しながら完成すると
「やったあ～！」と
満足そうな顔が
見られるから、
これもやめられない！

おまけに、別の所で会っても「あっ！ミシンの…」と声をかけてもらって話ができて、本当に嬉しいかぎりです。

今回のコロナ感染症で大変と思いましたが、ルールを守りながら心配りや気遣いをしながら、もうしばらく続けていきたいと思います。これが青少年育成に繋がるのかどうかはわかりませんが、子どもたちと関われることを楽しみたいと思います。

～ 鳥アド１年目です！よろしくお願いします。 ～

布広　覚

鳥取県青少年育成アドバイザー１年生の布広覚です。役場を 40 年間勤め、2 年残し早期に退職、その後は実家の農業を趣味程度に。現在、220ａの田畑の畦草刈りをしています。

私は若き頃、昭和 46 年から青年団活動を 10 年程経験し、平成 11 年に鳥取県青年団ＯＢ会を立ち上げ現在も事務局長を仰せつかっています。また、役場を卒業してからは、地域の多くの「役」に関わらせていただいています。多くの組織で、今年は「新型コロナウイルス」の関係で総会などは書面決議、必要な協議については行っていますが、行事等については「触れ合う」ということで中止となっています。

鳥取県青少年育成アドバイザーの皆さんは、熟年層で人生経験が豊富な方ばかり。いろんなご意見をお持ちのことと思いますので、多くの学習ができることと期待をしているところです。そして、今後の青少年活動の支援についていかにあるべきか？コロナ終息後の活動の在り方を検討しておかなければならないと思います。よろしくお願いします。

～ 徒 然 な る ま ま に ～

第3報

私のひとりごと

東　邦子

「民生委員は1期3年・3期9年しないと一人前とは言えない。本当の仕事が分からない。少なくとも3期は続けて欲しい…」民生委員に任命された時の地区会長の言葉でした。ぐずぐずしている間に8期目に入っています。途中でやめたくなる様な事もありましたが、どうしても辞めないといけない理由もなく、今日まで続いてしまいました。

民生委員になって思ったことは、「出る杭は打たれる」「長い物には巻かれろ」でした。それでは進歩も向上もありませんが、地域の方々が平穏に安心して暮らしていけたら良いのでは…と思うようになりました。

民生委員は地域の方々にとって行政や公共機関との「かけはし」で良いのでは…そのために出来る事を一生懸命やろうと思えるようになりました。

コロナ騒動でいろいろな会議や行事が中止になりました。

家の中を見回してみると、何年来手付かずになっている棚や物置が目につきました。一念発起、まず手近な棚をひっくり返してみました。ほこりと共に、亡き父が残した句集や私の小学校の頃の通信簿が出てきました。茶色く変色した成績表の成績はともあれ、担任の先生が書いてくださっている評価を見ますと、私の性格がモロに現れています。

1年生・・・動作緩慢にして発表を好まず。何事にも今一息の元気と勇気をもたせたい。

2年生・・・動作は緩慢なるも、最後まで努力される。

4年生・・・すばらしい発達ぶりだ。私と初めて心がぴったり合った。これから、うんと伸びるぞ。（この先生は大好きな先生でした）

5年生・・・学習に限度は無く、いくらでも深く高いものである。頂上を眺めながら手を伸ばそうとしないのはいけない。（きびしい先生でした）

父が同じ学校に勤務していましたので、少しはひいき目に見てくださっていたのかも…と思っても、本当によく生徒一人一人を見ていてくださったのだと思いました。

小学1年の時の私の性格は、80歳になろうかという今でも変わらず、動作緩慢にして発表を好まず…です。

民生委員になって、小学校に参観に行かせて頂くことがあります。騒然としていて、先生も手の施しようがないのかと思われる学級もあります。有り余る活力をどうしたら発散させることができるのか。手をこまねいているしかないのでしょうか。親を攻め、先生を攻め、子どもを攻めています。何かが違うように思うのですが、良いご意見のある方は教えてください。

コロナのお陰で、遠い昔の思い出に一寸胸がキュンとなった一日でした。

～ こんな店？　見つけた！ ～

隼 Lab.

鳥取県八頭郡八頭町見槻中 154-2

一言で答えるのが難しい

カフェ、地域の拠点、ワークスペースなど

様々な機能を持ち多様な人々が集まる場所！

八頭町立隼小学校の旧校舎を活用した複合施設です。

代表は 1987 年鳥取県八頭町生まれ。

0歳の赤ちゃんから、100 歳のおじいちゃんおばあちゃんまで。
働きに来る人も、遊びに来る人も、散歩に来るご近所さんも。
世代も立場も、ここに来る目的もばらばらの人たちが、
ゆるやかに重なり合う、隼 Lab.
ここに来なければ出会わなかった人たちが、
ここで出会い、ゆるやかに重なり合うことで、
新たな学びや発見が生まれ
それらは一人一人の暮らしをより豊かなものにします。

～編集後記～

豪雨・猛暑・コロナ渦。いつもとは異なる夏が過ぎようとしています。私たちは「異なる」夏の意味を、経験を、心に留めておかなければならないでしょうか。

小さな活動グループでも企業でも団体でも、「組織」には「異なる意見の持ち主」が必要で大事な存在だと思えます。異なる意見を言い合え、議論でき、そんな考え方もある、と受け入れる余裕が…。

「異なる意見」は、ときに、異なる角度からの見解や発想を生み、ストッパー（ブレーキ）にもなり得ると思うからです。同じ考えの人だけの集まりは、居こごちよく楽しい「なかよしグループ」で、それもよいものです。しかし「組織」は、「それは違う」と「異なる意見の持ち主」を排除してしまう慣習があってはならないと感じます。偏った方向へ転がってしまう可能性が否定できないと思えるのです。

終戦から75年。戦いに突っ走り戦うことをやめられなかった先人の方々は、「異なる意見」を排除し続けたのか…と思えてなりません。